

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

アレクセイ・チェスナコフ氏週報(12/22/2010)

2010年9月のモスクワ出張時に面談し、ロシアの改革動向について詳細な説明を頂いたアレクセイ・チェスナコフ (Алексей Чеснаков) 氏は、同氏が所長を務める政治動向センターのホームページに、毎週「средине недели (週央にて)」と題するコラムを執筆している。これはロシアの政治動向について簡潔にまとめたうえで論評を加えたものである。この種のロシアのメディアは数少ないため今後適宜参照することとする。

メドベージェフ大統領インド訪問の意義

最もドラマチックに発展する国インドへのメドベージェフ大統領の今回の訪問は、いくつかの理由から重要な意義を持つものであった。

理由の第1は将来的な国際関係構築の観点から、特に BRICs 諸国の位置づけに留意する必要があること、第2は過去の両国の国家間及び企業間の緊密な関係を踏まえ、両国政府間の協力を進める必要があることである。ロシアとインドはともに新興国であるというだけでなく、長年に渡り経済の様々な分野における二国間のプログラムを行ってきた。

第3は両国はともに独自の近代化戦略を持っており、一定の条件のもとでそれぞれの経験を共有することができることであり、それは近代化の社会的側面において特に言えることである。

最後の4つ目の理由は、共同イノベーションプロジェクトの実施である。インドは世界で最も人口の多い民主主義国家で、世界最大の市場の1つでというだけでなく、真の未来創造者である。その一例として、バンガロールはこの10年間、最も多くの科学者や企業家の注目を集めているところであり、インドさらに新しい近代化プロジェクトを進めている。

今回のメドベージェフ大統領のインド訪問において、安全保障からイノベーションに至る幅広い領域において成果が大きかったことは、2国間の協力の新しい段階へ向けての重要な一歩と考えることができよう。

記念碑と記憶

火曜日 (12月21日) に、ウラジミール・プーチンは統一ロシア党の代表とともに、モスクワのポクロン丘において「我々はともにファシズムと闘った」と題する記念碑の除幕式を行った。

この式典は、昨年のクタイシにおける悲劇的事故のためだけではなく、第二次大戦中に旧ソ連国民が経験した苦難の記憶を消すための様々な試みの1つとして注目を集めた。いくつかの国の者による記念碑を破壊しようとする行動は、実際新たなファシズムの兆候である。そのような意図を持つ政策の実現は不可能であることを明確に示す積極的な姿勢が必要である。ファシズムとの戦いの記念碑破壊の企てに関与した者のリストを作成、公表することが必要だ。それによってそれらの者のロシア及び同盟国への入国を禁止する等の措置を取るべきだ。それについて非政府組織が関与することが有効である。

新年の前に

今週からほとんどの政治家やマスメディアは、この1年の総括を始めるだろう。だが、今年何があったかを一々思い起こす必要はない。それは各自がそれぞれにやればよいことだ。来年何があるかを思い起こす方が遥かに有益である。

来年は議会の4年の任期の最終年にあたり、ロシアでは12月の議会選挙へ向けての政治的キャンペーンが開始される。選挙によって主要な政治勢力の行動と議論の方向性が決定づけられる。そして選挙は経済、社会両面に大きな影響を与える。そしてさらに選挙結果は2012年3月の大統領選挙とともに今後5年間の国家の発展の主要な方向性を規定することになる。